

世帯試験調査の概要

平成24年4月27日

経済社会総合研究所

幸福度研究ユニット

調査の概要(1)

1. 目的: 15歳以上全員に聞くという世帯調査のフィージビリティ(どの程度協力するかや実査の課題)を調べるとともに、世帯内の幸福感格差を調べる。
2. 調査期間: 平成24年3月15日～25日
3. 抽出方法: 市区町村の選定は有意抽出、地点は無作為抽出。対象世帯は、住民基本台帳を利用して個人を無作為抽出し、その個人が属する世帯とした。
4. 対象世帯: 10地区×10世帯(2人以上世帯)
 - 北海道・恵庭市、青森県・十和田市、埼玉県・川越市、千葉県・佐倉市、東京都・江東区、愛知県・名古屋市、大阪市・東成区、兵庫県・姫路市、岡山県・玉野市、福岡県・春日市
5. 調査方法: 調査員が調査票を配布、回収する訪問留置法
6. 調査実施機関: 社団法人新情報センター

2種類の調査票の配布

- 世帯付属票：世帯主あるいは世帯の状況がわかる方に配布。世帯全体の状況や世帯全員の氏名、性別、年齢等を記入頂くフェースシート
- 個人調査票：個人パネル調査票から世帯の状況を除外した幸福度等の調査票

協力状況

1. 世帯付属票の状況(有効回答率70%)

- 総アタック数:100世帯
- うち回収できた世帯:70世帯
- 拒否世帯 19世帯
- 不在世帯 7世帯
- 単身等その他 4世帯
-

2. 個人調査票の状況

- 配布数 199票
- 回収数 185票
- 配布数に対する回収数の割合:93%
- 想定配布数300票に対する回収票集の割合:61.7%
- 1世帯当たり配布数:2.84票

世帯表における氏名の記入状況など 協力状況

- 年子、双子のことを考えると、パネル管理のためにはイニシャルでは不十分であること(調査会社談)から、世帯付属表で氏名を記入してもらうことにした。
- 64世帯の世帯主で氏名を記入頂いたが、6世帯はイニシャルの回答であった。
- 個人ベースでは、世帯主は氏名を記入しているものの、世帯主以外についてイニシャル等で記入した世帯が3世帯あり、世帯主もイニシャルだった世帯も含めて合計27人がイニシャル等での記入であった。

個人調査票への協力状況

- 世帯調査票に記入がありながら、15歳以上にもかかわらず、個人調査に協力頂けなかった方が14人であった。
- また、世帯主本人には個人調査票を記入いただいたものの、他の世帯員に協力頂けなかった世帯は5世帯あった。
- 世帯主または世帯の状況がわかる方が記入した世帯付属票の世帯員の年齢と、各世帯員が個人調査票に答えた年齢が食い違う事例が4人あった。

世帯内プライバシーの観点

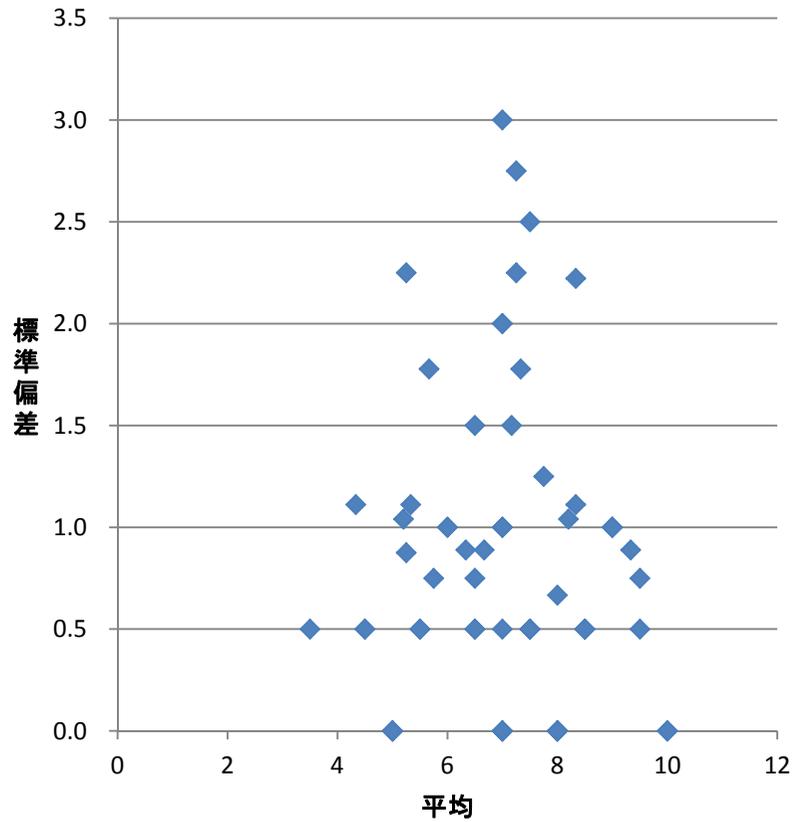
- 世帯内プライバシーの観点から、個人調査票を密封して回収することを当初検討したが、調査会社の玄関先で記入漏れをチェックできないとの指摘で、個人調査票を密封しないこととした。
- 今回、何件か封筒はないかとの問い合わせがあったが、それで調査を拒否されたということもなく、特段この点についての苦情はなかった。

総評・留意点等

- 基本的に氏名の記入に協力して頂ける世帯では個人調査票の協力状況もよかった。
- 訪問留置法での世帯調査では代理記入の問題が生じうるが、代理記入がないかみるために、個票を点検したが、今回は明らかに同じ回答ばかりというものは見当たらなかった。
- なお、今回の調査は調査員でも熟練された方をお願いしたので、協力状況が高かったという側面に留意すべきである。
- 優秀な調査員が限られているということを勘案すると、世帯調査を全国展開するには調査地点をある程度限定する必要がある。

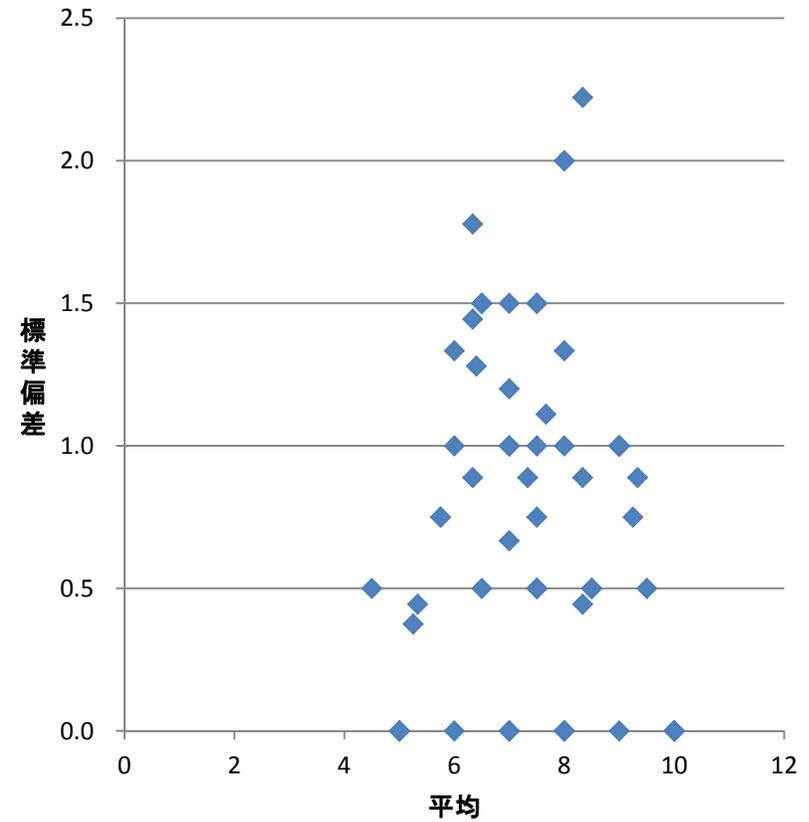
主な意識の世帯内平均と標準偏差(1)

Q1 主観的幸福度



R=▲0.03461

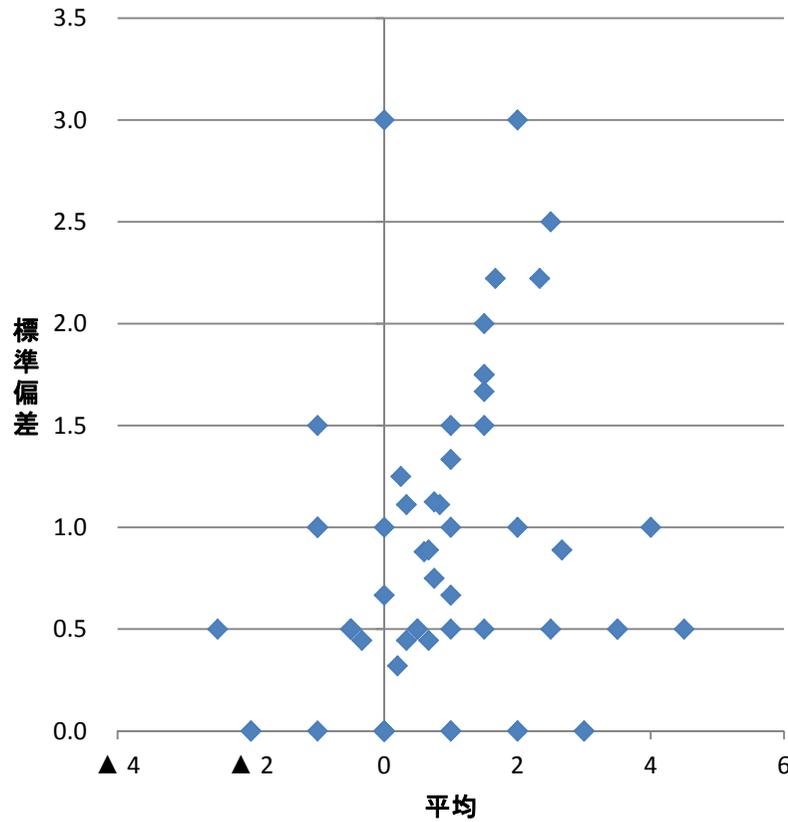
Q3 理想的な幸福感



R=▲0.0817

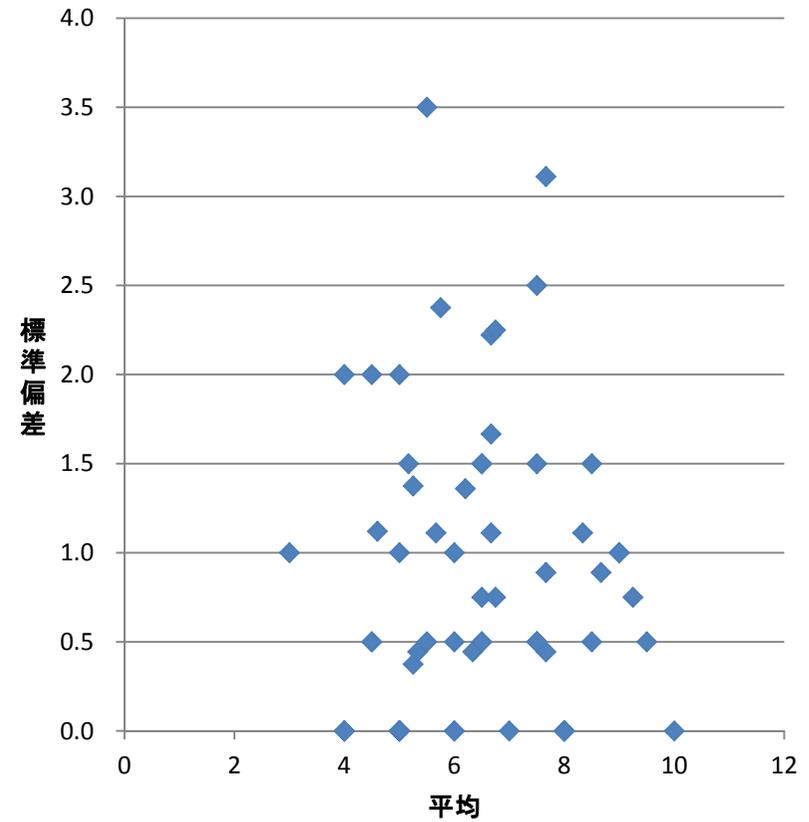
主な意識の世帯内平均と標準偏差(2)

Q4 今後5年後の幸福感



R=0.23566

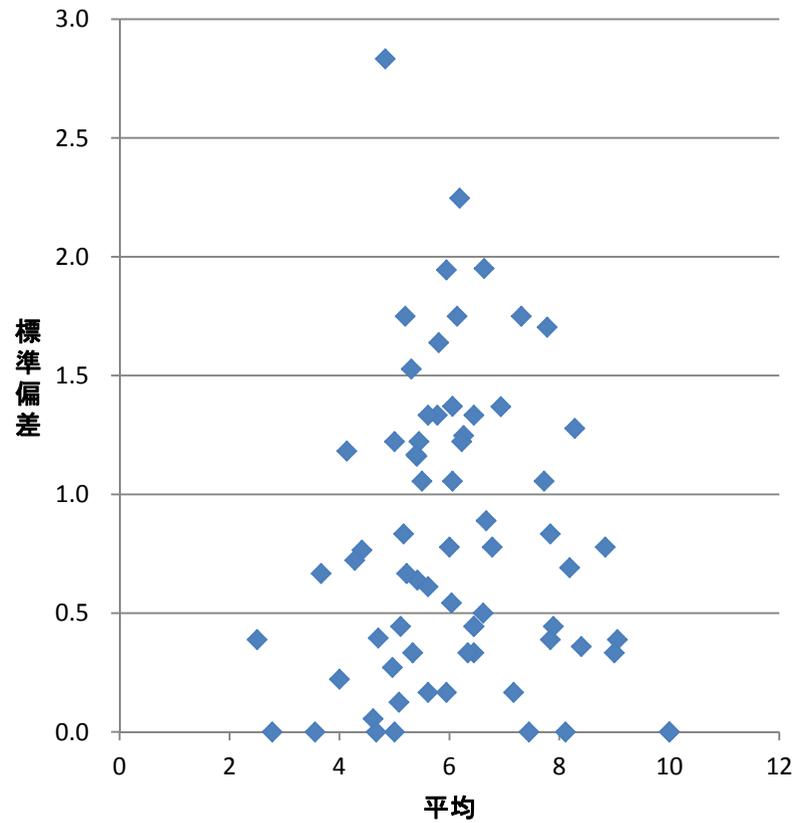
Q5 生活満足度



R=▲0.0368

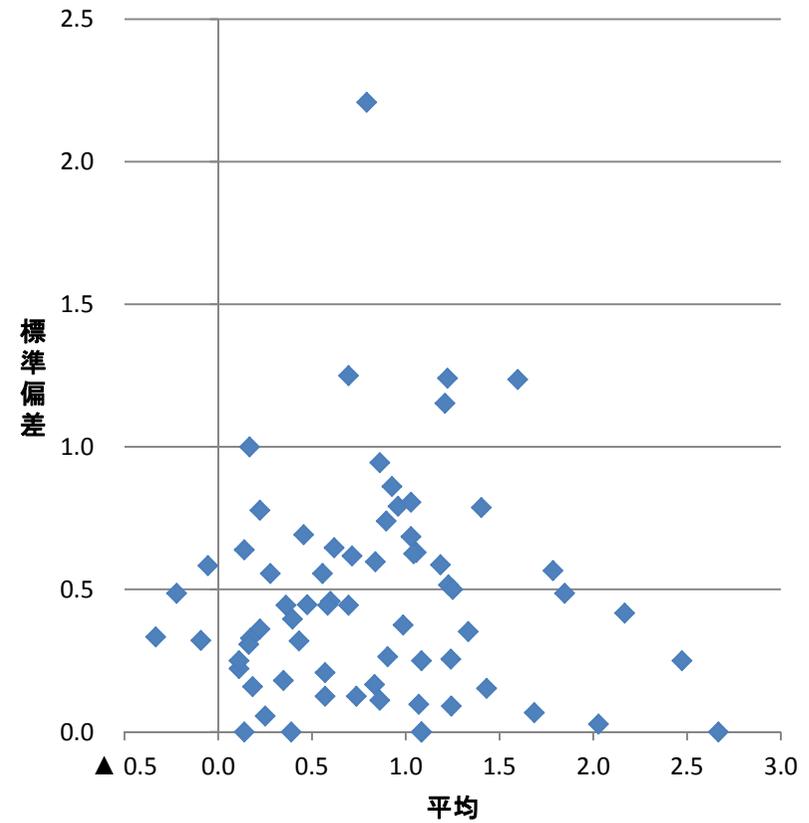
主な意識の世帯内平均と標準偏差(3)

Q6 協調的幸福感



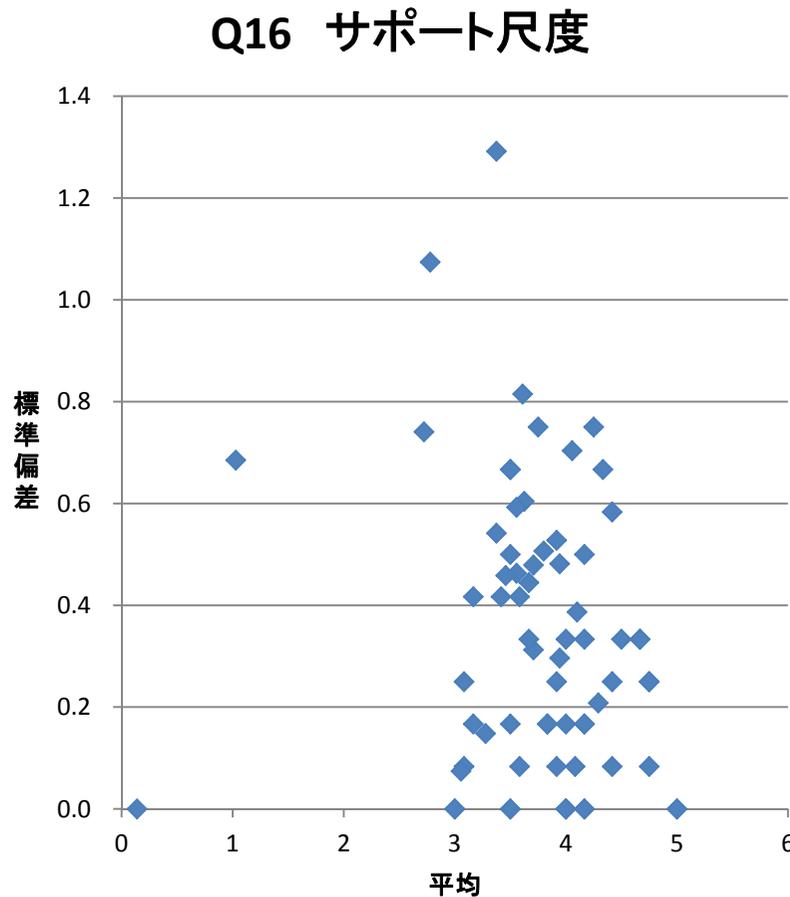
R=▲0.03682

Q7 感情経験バランス



R=▲0.00701

主な意識の世帯内平均と標準偏差(4)



R=▲0.14491

- まとめ: 今後5年後の幸福感を除くと、世帯内平均の水準と世帯内格差の関係はほとんど見られない。
- 今後5年後の幸福感については、世帯内格差が大きいほど、世帯内の平均も高い傾向にある。

主な意識の世帯内・世帯間の分散分解

	意識	within	between	total
Q1	主観的幸福感	1.380	2.022	3.402
Q3	理想的な幸福感	0.982	1.745	2.727
Q4	今後5年後の幸福感	1.206	1.459	2.665
Q5	生活満足度	1.495	2.195	3.691
Q6	協調的幸福感(平均)	1.196	1.977	3.173
Q7	感情経験バランス(平均)	0.373	0.317	0.690
Q16	サポート尺度(平均)	0.220	0.436	0.657

まとめ： 主な意識の世帯内・世帯間格差

- 感情経験バランスを除いて、主な意識は全体の分散のうち半分以上が世帯間の分散で説明できる。従って、世帯間格差の動向を把握することが重要であるが、個人パネル調査で、既に世帯間格差を把握している。
- 世帯内の分散はそれほど大きくないことから、世帯内格差が説明する度合いは限界的である可能性が高い。